教育センター学びの丘長期研修員研修の概要について

和歌山市立西脇小学校
教諭　橋　爪　友　美

和歌山県教育センター学びの丘における長期研修員研修は，教育に関する専門的・技術的事項について研修し，教職員としての資質能力を高め，その成果を本県教育の充実に生かすことを目的とされている。言うまでもなく，教員は絶えず研究と修養に励み，その職責の遂行に努めなければならない。研究とは「物事を詳しく調べたり，深く考えたりして，事実や真理を明らかにすること」であり，修養とは「知識を高め品性を磨き，自己の人格形成につとめること」(『大辞泉第２版』2012，小学館）とある。

今回，長期研修員研修を「自己の専門性をより向上させるための研究と，教員としての資質を広く高める修養の機会（下図参照)」として捉え，１年間研鑽を積むこととなった。研修中は,センター等が実施する多岐にわたる研修講座や指導主事等による「研修員研修」の受講，所属校における学校課題解決のための校内研修参加等を通して，幅広く教員としての資質能力の向上を目指してきた。

これらの修養の中で，教員としての自分の課題解決に直結するものに出会うことができた。その中でも特に,「授業力向上トレーニング」において，観点を用いた国語科の教材分析に取り組んだことが，教員生活における大きな転機となった。指導主事の指導のもと，研修員同士で行った教材分析での新しい気づきや,「わかる」が「楽しい」へとつながっていく感覚を，子どもたちにも味わわせたいという思いが研究への意欲を高めた。また，これまでの自分をふり返る契機となった研修の１つに「スクールコンプライアンス」がある。教育に関する様々な法を知ることで，学校における自分の立場や義務，権利について，考えを深めることができ，教員としての規範意識が高まったと感じている。

研究では，目指す子ども像を常に念頭に置き，教員としてどのようなことに取り組めば子どもたちに学びを還元できるのか，どうすれば習得したことを活用していく力を子どもたちの中に蓄積できるのかを考え，研究内容について検討した。そして，先行研究の理論に基づきながら考えた取組を所属校において実践することで，これまで見えていなかった課題に気づき，１年間の学びを所属校へ還元するという新たな目標を持つことができた。

このような修養と研究の密接な関連を感じる１年間を通して,「学び方」を知ることができたことは，今後の教員生活を支える大きな糧となった。また，自信を持って子どもたちと向き合うことのできる教員に一歩近づけたと感じている。ミドルリーダーとして，教員同士をつなぐ役割を担いながら，これからも探究心を持ち，多面的・多角的に物事を捉える視点を持って学び続けていきたい。

なお,自己の専門性を向上させるために,年間を通して行った研究については,別途「研究報告書」としてとりまとめることとする。

段階	第１段階 基礎期	第２段階 向上期	第３段階 探究期	第４段階 充実期	第５段階 修了期
月	４月～５月	６月～８月	９月～11月	12月～１月	２月～３月
研究	・研究テーマ，方向性を設定し，第１回報告会で発表	・所属校での授業研究に向けた単元計画，資料等作成，模擬授業	・授業研究計画を第２回報告会で発表 ・授業研究の実施	・授業研究で収集したデータ分析	・和歌山教育実践研究大会で発表 ・研究報告書，資料の作成
修養	所属校研修「所属校との連携・研修成果の還元」 ■「授業力」「学校組織開発力」「校内研修運営力」向上トレーニング ■専門性の向上を目指す専門研修講座等受講 ■初任者研修，１０年経験者研修聴講 ■学びの丘指導主事等による研修員研修				

図　研修の概要